



果してなく統  
くシヤングルの  
暗緑色の平面  
を、ボルネオは

コタキナバル（サバ州）、サンダカン  
(同)といった都市になると、その住民  
は圧倒的に中国人が多い。ボルネオもか  
なり奥地に入ったラシャン川のほとりの  
河ラシャン川は、まるで地理

シブヤミリの街も中国人ばかりである。  
その日の朝、車をチャーターレンタ  
ヤ族がその特徴的な高床長屋（竹製の）

族）、陸ダヤ族以外は、すべて中国人で  
ある。それも、クチン（サラワク州）、  
このようにボルネオの大地をもじら  
で根深く中国人が“汚染”していること  
に、いまさらながら驚き、一体、この地  
はどこの國のものなのか、マレーシアと  
はなにかを考え、いささか夢遊になつて  
いたのである。

私の今回のボルネオ行きは、海外學術

## ボルネオ考

中嶋嶺雄

たしかに素晴らしい。だが、それにして  
も、この地は一体、どこの國なのか。  
もとより、サラワク州もサバ州も、行  
政的には今日、マレーシア連邦に属する  
のだが、私がボルネオ、つまり東マレー  
シアにおいてマレー人を見出すことは、  
むしろ稀だといっていいほどであり、原  
住民の大部分を占める海ダヤ族（イバン  
族）が、陸ダヤ族以外は、すべて中国人で  
ある。それも、クチン（サラワク州）、  
暗緑色の平面を、ボルネオは

マレーシア航空のターボプロップ双発機  
に乗っていると、高  
度が低いので、ボル  
ネオの風光は手にと  
るようわかるのだ  
が、私は機内でいさ  
さか変遷であった。  
この広大な自然は、  
たしかに素晴らしい。だが、それにして  
も、この地は一体、どこの國なのか。  
もとより、サラワク州もサバ州も、行  
政的には今日、マレーシア連邦に属する  
のだが、私がボルネオ、つまり東マレー  
シアにおいてマレー人を見出すことは、  
むしろ稀だといっていいほどであり、原  
住民の大部分を占める海ダヤ族（イバン  
族）、陸ダヤ族以外は、すべて中国人で  
ある。それも、クチン（サラワク州）、  
暗緑色の平面を、ボルネオは

ong House）に居住している実態を  
見にいったことも印象深かつたけれど、  
前日、たまたまクチンの市民（中国人）  
をあげて眠っていた鳳山寺の広沢尊王  
の祭りに出会い、広蔵公会、潮州公会な  
ど、の標識をかけた中国人のその風俗。  
伝統・習慣の根強さ、つまり、この地に  
おいてさえ排他的に保存されている「中  
國文化」の強烈な自己主張に、私は圧倒  
された。

このようにボルネオの大地をもじら  
で根深く中国人が“汚染”していること  
に、いまさらながら驚き、一体、この地  
はどこの國のものなのか、マレーシアと  
はなにかを考え、いささか夢遊になつて  
いたのである。

私の今回のボルネオ行きは、海外學術  
調査の一環として  
「中国の影」の広が  
りや華僑対現地人の  
関係などを調査する  
ためのものであった  
が、ここに私がこの  
目的で見出した現実を  
とあけただけでも、中国とアジア諸國  
との近くと遠い、複雑で困難な関係を実  
感することができる。私たちは、このよ  
うなローカルなレベルでの地域的現実を  
ほとんど無視してアジアや中国をあまり  
にも意識的に論じすぎているのではないか  
ろうか。